

やっちゃんえ 西谷

今年度から複式学級が2つになり、来年度からすべての学年が複式学級になる予定です。子どもたちの人数が少なくなり、これからの教育をどのように進めていかなければならないのかについて、学校では常に議論しています。いろいろなところでお話していますが、子どもの人数が多い学校では、教室が足りない、運動場が狭い、何か物事をするにしても時間がかかる、一人一人にきめ細かく関わっていくことが難しいなど、いろいろな課題があります。本校は、反対に子どもの人数が少ないことによる課題はいろいろとありますが、反面、きめ細かい関わりができること、小回りが利き臨機応変に対応できること、子ども同士の関係が良好で学年を超えて交流があること、地域や保護者の支援や協力が大きいことなど、プラスの面もたくさんあります。昨年の6年生の修学旅行から新幹線を利用して行いましたが、他校では新幹線に乗ったことのない児童がたくさんいる中で、西谷の子どもたちはいち早く新幹線に乗り、多くの体験をすることができたのも少人数ならではのことです。つまり、子どもの人数が少ないことをプラスに捉え、他校ではできないことをやれるのが本校の特徴です。

そこで、この話のタイトルにもあるように、今年度は「やっちゃんえ 西谷」ということをスローガンにして、子どもたちや先生に多くのことに挑戦してほしいと思っています。「あんなことがしたい」「こんなことをしてみたい」と思ったら、とにかくやってみる、どうしたらできるかを考えてみるなど、まずは行動に移してほしいと思います。結果がどうなるかは二の次です。結果によってはやり直すことがあるかも知れませんが、やる前からあきらめず一步を踏み出してほしいと願っています。「できるかできないか、より、やるかやらないか」です。

6年生の社会科学習で、行政の仕組みや議会制度などの公民分野の学習をしています。先日6年生が市のガイドブックを見て疑問に思ったことをまとめました。そしてその疑問を解決する方法として、市役所の人に疑問を書いた手紙を送って返事をもらうという活動を考え、実際にまとめたものを学校から市役所に送りました。しばらくして市役所から一人一人に返事が届きました。疑問の内容に関係する部署の人からの返事でした。子どもたちは、返事が来た嬉しさと書いてある内容を読んで次の学習に活かしていききました。

このように、思い切って手紙を送ったことで得るものがあり、次につながっていくことを学ぶなど、生きた学習になっています。

この学習のように、思い立ったらやってみる、それが「やっちゃんえ 西谷」です。